

山の百花

滝尾 半田 隼子

【25】水仙

水仙は1月の花ですが、日当たりの良い場所では、12月に入って間もなく、その美しい姿を見かけることができます。特に珍しい花ではありませんが、種類は豊富です。

暮れも押し迫った頃、陽だまりの中を、

三浦半島の秘境と言われる森戸川源流を歩き、逗子から田浦に抜けました。田浦は梅林で有名ですが、この日は水仙の花が満開でした。散策路に沿って、一面に水仙が植えられています。梅はまだ咲いていませんでしたし、年末ということもあって、ほとんど訪れる人もなく、水仙の花たちを独り占めにしました。時折穏やかな風が吹くと、辺りには、とても良い香りが立ち込めます。

水仙は球根で増えますが、冬が寒ければ寒いほど、春には美しい花を咲かせるのだそうで、何とも健気な花です。冬の間は、地中深く息を潜めて、ひたすら春を待つのです。イギリスでも、水仙は本格的な春の訪れを告げる花です。こちらは黄色の大降りのもので多く、ラッパ水仙と呼ばれてい

ます。日本の水仙は、中央が黄色で、白の小ぶりの花ですが、香りが強く、楚々として、まるで「春の貴婦人」のようです。

温暖化の影響で、水仙の球根が死にかけているというような話を聞きました。毎年美しい花たちに会えるように環境にも配慮したいものです。



【26】フキ（フキノトウ）

11月初めの上高地に行ってきました。あと1週間足らずで、ホテルも閉まってしまふということ、夏のような騒々しさはなく、色づいた落葉松の林の中をゆつくりと散策することができました。その晩は五千

尺ロッジに泊まりましたが、翌朝外に出てみると、河童橋には霜が降りていました。地元のガイドさんと一緒に明神池まで歩いていく途中、珍しいものを見つけました。

フキノトウの赤ちゃんです。枯れて朽ちたフキの葉の根本には、しっかりと春の準備がなされていました。これから、一度雪をかぶり、春には私たちが知っている若草色のフキノトウになって地表に現れるのです。

長野県は山国で、気候の変化が激しく、同じ季節でも場所によって植物の成長具合が全く違います。ゴールデンウィークに水芭蕉を見に鬼無里を訪れましたが、とにかくすごい雪でした。それでも、日当たりの良い斜面では、ところどころ雪が解け始め、沢山のフキノトウが顔を覗かせていました。まるでフキノトウの団地のようなです。自由に取って良いというので、娘と二人、袋一杯に取ってフキ味噌を作って食べました。バスが鬼無里を過ぎて市街地に入ってから、道路わきには大きく伸びたフキの白い花が咲いています。食べてよし、見ても楽しいというのであれば、フキは申し分ない花だと思いました。